

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)														
ET46J006		臨床心理査定演習 (Seminar in Assessment of Clinical Psychology II)					臨床心理学														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員															
選択	2	1	大学院教育学 研究科	後期		氏名 溝口 剛・佐藤晋治 E-mail t-mizo@oita-u.ac.jp, ssato@oita-u.ac.jp 内線 7522(溝口)、7531(佐藤)															
授業の概要	心理検査を用いた心理査定の実際について、具体的な事例に基づいて学ぶことで、高度に実践的なアセスメント能力を養成する。前半では、質問紙法と投影法をバッテリーとして組み合わせて実際に検査を施行し、被検者のパーソナリティを力動的かつ総合的にアセスメントしていく能力を涵養する。後半では、知能・認知能力検査、適応行動尺度、感覚プロファイルなどをバッテリーとして組み合わせて実際に検査を施行し、被検者の発達のニーズの背景を総合的にアセスメントし、支援計画を提案していく能力を涵養する。																				
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)																				
目標1	心理検査を正しく施行し、適切に結果を整理し、総合的に解釈する実践的能力を身につける。																				
目標2	検査データから根拠をもってパーソナリティおよび発達のニーズの背景をアセスメントする高度な専門的能力を養う。																				
目標3	アセスメントの結果を報告書の形で適切に記述し、支援に結びつけることのできる高度な実践的能力を身につける。																				
目標4																					
目標5																					
目標6																					
目標7																					
目標8																					
目標9																					
目標10																					
授業の内容																					
1	オリエンテーション (溝口・佐藤)																				
2	パーソナリティのアセスメントを施した事例 の発表・討論(溝口)																				
3	パーソナリティのアセスメントを施した事例 の発表・討論(溝口)																				
4	パーソナリティのアセスメントを施した事例 の発表・討論(溝口)																				
5	パーソナリティのアセスメントを施した事例 の発表・討論(溝口)																				
6	パーソナリティのアセスメントを施した事例 の発表・討論(溝口)																				
7	パーソナリティのアセスメントを施した事例 の発表・討論(溝口)																				
8	パーソナリティのアセスメントを施した事例 の発表・討論(溝口)																				
9	発達ニーズに関するアセスメントを施した事例 の発表・討論(佐藤)																				
10	発達ニーズに関するアセスメントを施した事例 の発表・討論(佐藤)																				
11	発達ニーズに関するアセスメントを施した事例 の発表・討論(佐藤)																				
12	発達ニーズに関するアセスメントを施した事例 の発表・討論(佐藤)																				
13	発達ニーズに関するアセスメントを施した事例 の発表・討論(佐藤)																				
14	発達ニーズに関するアセスメントを施した事例 の発表・討論(佐藤)																				
15	発達ニーズに関するアセスメントを施した事例 の発表・討論(佐藤)																				
ラ ア ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造					予習,復習,宿題,体験活動,調べ学修(文献,インターネット), Moodleの活用, プレゼンテーション, ディスカッション, 相互教授(ピアインストラクション), 学びの省察,					工 夫 そ の 他 の										
時間外学修の内容と時間の目安	準備 授業後半で使われる事例については、事業時間外に各自で協力者に心理検査を依頼・実施し、分析・所見作成の上、順次授業で発表していく(1週あたり120分)。 事後 学修した内容を振り返り、授業で扱った内容や関連する課題について論文、書籍、インターネット等により「調べ学修」に取り組むこと(1週あたり120分)学修。																				
教科書	片口安史 1987 改訂 新・心理診断法 金子書房 高橋雅春・高橋依子 1986 樹木画テスト 文教書院 辻井正次・明彦 光宣・染木 史緒・伊藤大幸他(編集) 2014 発達障害児者支援とアセスメントのガイドライン 金子書房																				
参考書	コッホ,K. 岸本寛史・中島ナオミ・宮崎忠男(訳) 2010 バウムテスト第3版 心理の見立ての補助手段としてのバウム画研究 誠信書房 馬場禮子 1995 ロールシャッハ法と精神分析 継起分析入門 岩崎学術出版社 その他、授業で紹介する。																				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10									
	授業への取り組み、課題遂行状況、発表、討論の状況	60%																			
	自分が担当した事例についての最終レポート	40%																			
注意事項	質問紙法(TEG, GHQ, Y-Gなど)や投影法(描画法, SCT, ロールシャッハ・テストなど)、知能・認知能力検査(ウェクスラーファミリー、KABC-、DN-CASなど)、適応行動や感覚に関する検査(Vineland- 適応行動尺度、CLISP-dd, 感覚プロファイルなど)の基礎は習得済みであること。																				
備考	「臨床心理士」の受験資格取得を目指すものにとっては必修科目となる。 佐藤担当の講義では、Moodleを閲覧できる媒体(スマホ、タブレット端末、ノートPCなど)を持参すること。また少なくとも週に1度はMoodleのこの科目のペー																				
リンク	URL																				

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の实務 経験	溝口剛（臨床心理士）、佐藤晋治（臨床心理士）